

外大生が  
聞いた！

白鷹町  
移住の魅力





中尾さんご夫婦  
田舎の暮らしを求めて  
東京から移住



平野道代さん  
パレス松風で勤務  
千葉から移住

# 白鷹に移住された方



# 方にインタビュー



菅原大夢さん  
地域おこし協力隊  
しらたかマルチワーク  
事業協同組合事務局長



貴田洋介さん  
農業に挑戦するため移住  
現在は独立を目指して農  
家で修行中





## たかマルポイント 02 四季を楽しみながら 仕事をする

マルチワークでは、「春はお米、夏はトマト、秋はりんご農家、冬は製造業」と、季節ごとに内容や場所が変化していく働き方が可能です。さらに、一週間の中で、「月・火は農業、水・木・金は製造業」というように変化するケースもあります。たかマルは、地域の仕事とはたらく機会をむすび、移住者のキャリアアップをサポートします。

←並んだメロンの箱詰め作業の様子

## たかマルポイント 03 移住を考えている方へ

一度外に出て、自分の育った地元の見え方が変わりました。青い空と白い雪が織りなすコントラストや、広大な田園、そうした景色を眺めながら仕事ができる環境など、都会では得られない魅力が計り知れないほど見つかりました。



# 白鷹で、たかマル。



## 菅原 大夢さん

## たかマルポイント 01 Uターンで、人と仕事と山河をむすぶ

白鷹町出身で、コロナをキッカケに地元へUターンした菅原さん。現在は、白鷹町地域おこし協力隊として活動中です。

さらに、しらかマルチワーク事業協同組合「たかマル」の事務局長を兼務しています。マルチワークは、1つの仕事ではなく、同時に複数の仕事に携わり働く方で、季節や時間ごとに仕事内容や場所が変化していきます。

「地域を元気に、新しい挑戦を応援しながら一緒に気持ちを高めて進んでいく（＝高まる・たかマル）」という、たかマルの理念の下、地域の仕事と移住者を繋ぎ、白鷹を盛り上げようと日々活動しています。たかマルで人材として派遣された方が、白鷹で起業し、今度はその方がたかマルから人材を受け入れる、という、たかマルによる好循環が生まれることが、菅原さんの目標であると、お話ししてくださいました。

## Shirataka Life 02 理想郷、白鷹町



都会で感じた人々の忙しなさや街の喧騒から離れたのどかな街、白鷹町での暮らしはまさに理想郷だと感じているそう。家の庭には畑を持ち、憧れていた本格的な家庭菜園を始めることができた中尾さんご夫妻は、「自分たちで消費するものは自分たちの手で作る。」という考えのもと日々農作業に精を出しています。

地元の方々との繋がりも増え、移住して間もない頃の不安はすぐに安心に変わったといえます。これからも人との縁を大切に、白鷹ライフを満喫されるはず。

## Shirataka Life 03 移住を考えている方へ

ここ白鷹には温かい人、美味しい食材、のどかな町が広がっています。タイミングと縁を大切にぜひ勇気ある一歩を踏み出してみてください。



## 豊かな暮らしを求めて



## 中尾 仁/真紀 さん

### Shirataka Life 01 白鷹移住のきっかけ

今年の夏に東京から白鷹町へ移住された中尾さんご夫妻。以前より消費から離れた自給自足の生活に憧れを抱いていたお二人は、新しい生活のカタチを探る中で白鷹町に出会ったそう。

白鷹町移住の決め手は理想の家が見つかったこと。地方での理想に叶う物件探しは大変なんだとか。そんななか地域の方から現在のご自宅を紹介されたのだそうです。また白鷹町の移住体験ツアーにも参加し、白鷹の生活に親しんでいたエピソードも聞かせていただきました。移住の手続きをする際にも自治体の職員さんが親身に対応してくれ、仕事上だけではない人間同士の人付き合いに魅力を感じたのだそうです。お住まいの地区は住民同士の結びつきが強いと言われている白鷹町の中でも、特に住民の結束が強いと言われている地域。常に隣の住人さんが気にかけてくれ、同じ地区の人でパーティーを開いたり旅行に行くこともあるそうです。

現在はお自宅の整備を進めるお二人。草刈りなどの作業は大変なもの、満足感も感じるのだとか。前々から興味を抱いていた雑穀もご自宅で育ててみたいのだそうです。



## Michiyo's Point 02 白鷹町の魅力とは

平野さんにとって白鷹町の良いところは、困っている人を見捨てない人の好さと、景色の良さ、そして作り手の分かる美味しいものが食べられるところです。日々の仕事に加え、山岳部や天蚕の会など町の多くのコミュニティに参加し、毎日様々なところへ出かけているそう。「この町の中で私が一番白鷹を楽しみ、その魅力を体現しているという自負があります(笑)」と平野さんは話してくださりました。

←平野さんが働くパレス松風から見下ろす白鷹の景色



毎日がたのしい！

## 平野 道代さん

## Michiyo's Point 03 移住を考えている方へ

平野さん「移住することを重荷に感じず、レクの延長上の感じで躊躇せずやってみるといいかもしれないですね。どんどんいろんなことに挑戦してダメだったらやめる、たとえ失敗をしても今度は考え方を改めてチャレンジしてみる。自分がやれることから始めましょう。毎日を笑顔で過ごすことが一番大事です。」



## Michiyo's Point 01

## 移住して実際どう感じているか

「初めにこの町に移住した経緯をお話すると、白鷹に在住している友達がいまして、その人から白鷹町の魅力をよく聞いていたんです。」と平野さん。2017年頃から白鷹に遊びに来ることが増え、白鷹町の様々な一面を見ることが出来るようになったそうです。元々移住することを考えていたこともあり、白鷹の四季折々の景色をこれからも身近で見たいと強く思い移住を決定しました。

パレス松風でフロントの仕事がされていますが、移住者として町の人に顔を覚えてもらえるきっかけになっているので嬉しいそうです。「昔から町に住んでいる人達にとって当たり前のことがすべて楽しくて、やりたいことがたくさんあるんです。休みが足りないほどで困ります(笑)」と平野さんは語ります。また、大切なパレス松風を働き先として検討してもらえようという魅力ある施設にしたいという思いも強まっているそうです。



## Agriculture 02 ちょうどよい田舎感

白鷹町の良いところとしてちょうどよい田舎感を挙げた貴田さん。山形市や仙台市にもアクセスは良く、車があれば生活に困ることはないといいます。不便過ぎない場所というのも魅力であり、都市の便利さはなくても住めば都という感じで慣れてくるそうです。また、白鷹町はコメが美味しく、以前食べた新米の味には本当に驚いたそうです。悪い点として挙げたのは、電車・バスなどの公共機関がないため車がないと不便なこと。逆に言うとそれくらいしか困ることはなく白鷹の暮らしを満喫しているそうです。



# ブドウで広がる夢

## 貴田 洋介さん

### Agriculture 01

## 白鷹への移住から新規就農まで

4年前、神奈川から移住して白鷹で就農を志した貴田さん。はじめは東京で開催された新農業人フェアに参加し、白鷹町での就農、特にぶどう栽培に興味を持ち応募することに決めました。そして、白鷹町の地域おこし協力隊として活動し始めた。町の新規就農者育成支援事業のサポートを受けて実際の町のぶどう農家の下で働きながら就農準備を進め、ついに来年から自らのぶどう農園をもって農業を本格的にスタートさせる予定であるそうです。新型コロナウイルスの影響もあつたといいますが、その間も地域の食事をふるまうイベントに参加したり、猟友会に所属し狩猟の資格をとったりするなど、白鷹の生活に段々となじんでいくことが出来、地域の人々との触れ合いを大切にできるようになったといいます。

## Agriculture 03 移住を考えている方へ

「住めば都ではあると思いますが、白鷹町はちょうど良い田舎感が魅力です。人付き合いを大切にすると、空き家の情報なども得ることができるためになることもありますよ。」とおっしゃっていました。移住を考えている方はまず公共の窓口などに相談してみることが良いといいます。





# あいべ 白鷹町

